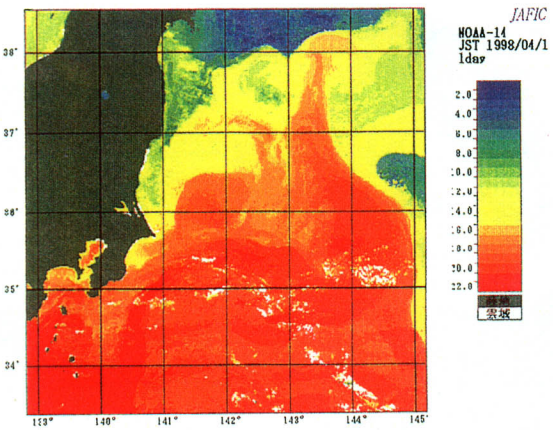
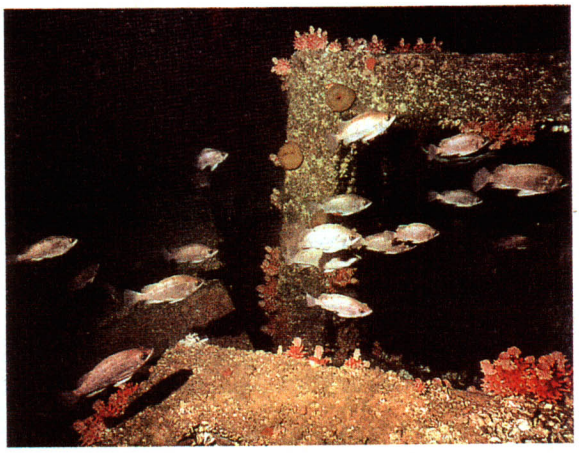
漁場生産力に関する研究

水産試験場では、海況、漁況予測の精度向上を図るため、基礎生産力（栄養塩類、動植物プランクトン）、物理的環境（水温、塩分、潮流等）並びに魚群の分布量等の調査を行っています。

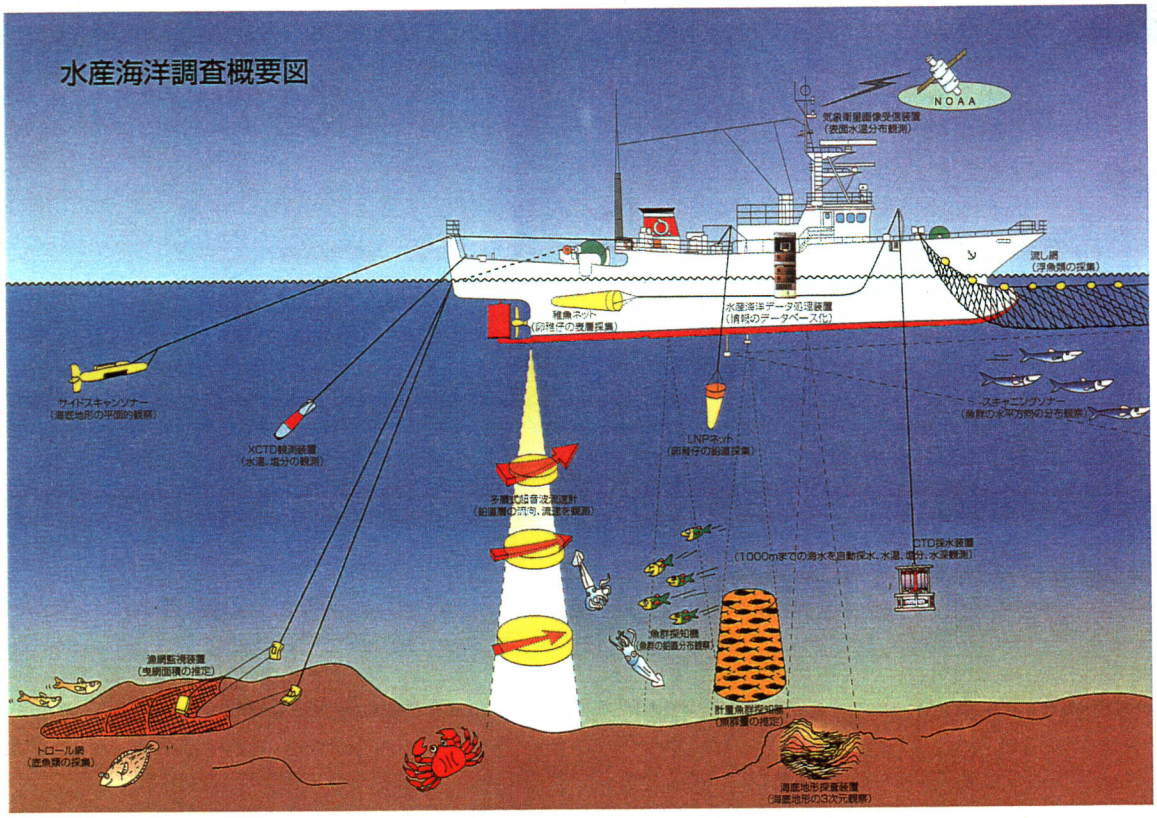
また、平成11年に代船建造されたいわき丸は、最新鋭の観測機器を搭載しており、得られたデータは船内のオンラインコンピューターで一括処理され、効率的な調査が可能となりました。



人工衛星画像（NOAA）の表面水温分布（春期）
インターネットにより毎日画像を受信し、現況を把握するとともに、漁業者に広報し操業の効率化を図っています。この画像は、3～4℃台の親潮系冷水の南下が本県北部海域に見られる一方で、沖合には黒潮系北上暖水が波及している春期の代表的事例です。



魚礁に蝟集（いしゅう）する魚群
魚礁の設置状況や魚の集まり具合を潜水や水中テレビロボットを使って観察調査しています。このロボットは、ケーブルを介し陸上からコントロールできるため、潜水できない深い場所の観察も可能です。



いわき丸（159トン）による調査の概要図